

事例紹介

熊本県水俣市立 **水俣第二中学校**

個別の補充学習にeライブラリ！

～「わかる」を実感する参加型学習へ～



水俣第二中学校は、教育委員会予算で導入しているeライブラリに、学校の学力向上予算でプリント教材を追加購入し、家庭学習から入試対策まで幅広く役立てています。

運用 校内でも家庭学習

学校と家庭の履歴を統一

水俣第二中学校では、全生徒に家庭学習サービスを案内しています。テスト前に重ねて紹介したり、先生が学習履歴を確認して「頑張ってるね」と声掛けしたりと、学習意欲を高めるために様々な工夫をしています。

また、単元のまとめや補習でりれきドリルを校内で活用する際にも、家庭学習サービスを利用しています。学校と家庭の履歴を統一することで、学習状況を把握しやすくなり、個別指導にも繋がるそうです。



■真剣に取り組んでいます

授業 単元別プリントで入試対策

入試前に、単元別プリントで徹底復習！

入試前の3年生の授業では、各教科でプリントを活用しています。橋爪先生の理科の授業では、熊本県の入試問題傾向に合わせ、毎時間授業の冒頭で1～2年生の生物の単元別プリントに取り組んでいます。

「生物の問題は入試問題の冒頭に出てくることが多く、覚えることで確実に点数が取れるので、プリントで繰り返し学習し、本番の問題でもしっかり答えられるようになって欲しい」と橋爪先生。受験本番まで生徒を後押しする気持ちが伝わります。



■自主学習にもプリントは効果的

情報担当 橋爪 先生のお話

eライブラリはテスト前や入試対策だけでなく、補充学習でも活用しています。授業の内容になかなかついていけず、集中力がなくなりがちな子も、個別にeライブラリを使って補充学習をすることで、**自分も参加しながら、内容もわかっていく充実感を味わうことができ、集中して取り組んでいます。**このような実践は、中学校の**生徒指導上の問題解決にも繋がっていく手立て**だと感じています。

今後は更に家庭学習を周知し、**年度当初のPTA総会や授業参観など、意識が高い時期に保護者の方も巻き込みながら、取り組んでいきたい**と思います。



橋爪 亮彦 先生

クラスの弱点をドリルで克服!

～課題機能で既習単元の復習～

木の香り漂う校舎に、壁や天井にいくさ壁紙を利用したとても素敵なPC教室を持つ袋小学校では、授業でりれきドリルを活用しています。今回は子どもたちの様子と、活用のねらいについて紹介します。

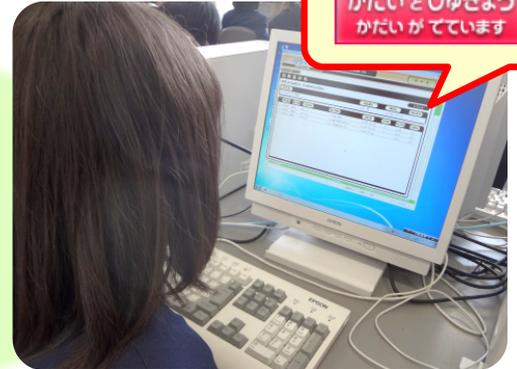


授業 先生指定のドリルで弱点を徹底克服

● 先生からの「課題」に挑戦!

4年生の算数では、単元のまとめテストの返却後にクラス全体で理解の浅かった内容に絞って、ドリルに取り組んでいます。先生は、テストの結果を元に復習させたいドリル教材を選び、課題機能でクラスに出題します。

子どもたちは先生からの課題に意欲を持って挑戦し、基礎から復習しました。テスト後に行うことで、子どもたち自身が出来ていなかったところを克服する必要性を感じ、集中して学習できるそうです。



かたいとしゅぎょう
かたいがてしています

■ログインすると先生からの課題が表示されます



■学習履歴を確認後に個別フォロー



● 履歴を確認して、個別指導へ

先生はクラス全体の進捗を確認し、少し進度が遅れている子どもを見つけると、個別指導を行いました。

子どもは先生の説明を聞きながら自分のペースでじっくり進め、「最後までやる!」と、諦めることなく取り組んでいました。「eライブラリを活用することで、自分の課題に向き合い、より意欲的に真剣に取り組むことができます」と山本先生。最後はクラス全員が課題をクリアしました。

● 無回答にしない癖がつく

「eライブラリのドリルは選択式なのも良いです」と山本先生。選択肢の中に必ず正解があるので、「わからなくてもどれかは答えよう!」という意欲づけになります。

学力テストで無回答の子どもを減らすためにも、普段の学習から「必ずどれかは選んで無回答にしない」という指導を心がけているそうです。



■すぐに正誤を判定し、やり直しもできるので不正解でも安心して取り組みます。

情報担当 山本 清 先生のお話

熊本県独自で行っている学力テストの結果を見て、既習単元の復習の必要性を感じていました。そこで、子どもたちの学習意欲を高める為にPCを使った学習が効果的ではないかと考え、eライブラリを使い始めました。

eライブラリの学習には、子どもたちに自分の苦手なところを克服し、しっかり定着させて欲しい、そして繰り返し学習の場として使って欲しいという思いがあります。子どもたちの学習意欲には、それぞれ差があるものですが、このドリルでは全員が意欲的に学習できているので、クラスの実態に合った学習方法だと感じています。



山本 清 先生